

夢のかけはし

誰かの助けになる駆け込み寺
のような場所を目指して

志布志市出身。ヴァージンアトランティック航空の初の日本人国際線クルー第1期生。日本人女性として初の「聖アガタ騎士団のシュバリエ（騎士）」の叙勲を受賞。昨年、新生町で1日1組予約限定で飲食等を楽しめる「結SANMARINO」を開業し、店内の総合的なブランディングを手掛ける。

19歳で渡米し、次にイギリスへ留学。その後、国際舞台で要人が集まる会合に出席した際に、サンマリノ共和国特命全権大使のマンリオ・カデロ大使閣下とご縁があり、サンマリノ共和国に関わることになりました。大使は親日家で、東日本大震災後に鎮魂を行うために神社を建立する計画を立案。私は計画へのアドバイスを担当しており、これを契機に正式に特別顧問就任のお説いがありました。これには大きなプレッシャーを感じましたが、日本とサンマリノ共和国の懸け橋になればと思い、受理することに決めました。それをきっかけに、現在でも国内外で色々な縁をつないでいます。

私は志布志市生まれで、生まれ故郷の鹿児島県やこの大隅半島をとても大切に思っています。ここは「食材・人材供給基地」と言えるくらい優秀な人材やモノにあります。そこでこの大隅で国と国をつなぐアンテナショップを開くことを決意。酒販、輸入業、美術古物商など色々な免許を会社で取得し、新生町で昨年開業することができました。広告や看板もありませんが不易流行の精神で顔の見える接客を心掛け、心安らぐ場所を作りたいという想いで事業を始めました。今ではコロナ禍にも関わらず全国から多くの方が足を運んでくれる場所となっています。

駐日サンマリノ共和国大使館 特別顧問 ふじやま くにこ 藤山 邦子 さん

お店の従業員3人は県外からの移住者です。もともとは仕事上でお付き合いのあった人たちでしたがが、東日本大震災によって自然の畏怖の念に触れ、自分の生き方を改めることに迫られ、ここ鹿児島への移住を3人とも決意。縁もゆかりもない地へ来て10年。腰を据えて働き続けたことで鹿児島に愛を感じ、今度は自分から恩返しをしたいということで日々切り盛りしてくれています。

今後はこの大隅で文化村のようなコミュニティを作るのが目標です。誰かの助けになるような駆け込み寺として、衣食住の温かいものを感じてもらえる、そんな場所を提供し続けていきたいです。



【右】東日本大震災を機に鹿児島に移住した3人の従業員と4人5脚で温かい空間を創る。

【左】昨年12月に「日立 世界ふしぎ発見！」で紹介された限定2,000本のサンマリノ産ワイン。その他店内は様々な国の人芸品にあふれる。